

佐用高等学校  
同窓会報

# 塔 陵

発行所  
兵庫県佐用郡佐用町佐用260  
兵庫県立  
佐用高等学校同窓会  
電話 0790 (82) 2434 (代)  
FAX 0790 (82) 2719  
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/>  
印刷所  
(資) 谷本弘輝堂



JA共済連兵庫様から寄贈のコンバインで収穫実習

## 古希を超えて、再び友との絆が



同窓会長 谷本 学

高校21回生 (昭和四十四年卒)

コロナウイルス感染者数が少なくなったとはいいながらも、決して安心はできない状況が続きますが、同窓生の皆様にはお健やかに元気で過ごしていただくこととお喜び申し上げます。

「今日、初めて大イチョウを見てきたぞ。すごく立派で、大きな」3年間、姫新線で通学していたけど知らなんだがな」と言う友達に「今年のイチョウは葉の繁りも、色づきも最高やで！」と県指定天然記念物である佐用の大イチョウを、誇らしげに自慢した。11月中頃、佐用町内のゴルフ場での会話である。

さて、私が健康保持も兼ねて、時々ではあるが参加しているゴルフコンペがある。平成23年から佐用近隣のゴルフ場で毎月一回開催されている佐用高校21回卒(普通科)の同級生ゴルフコンペで、回数も優に100回を超えという。クラスの枠を超えての楽しく気軽な付き合いの場である。

最初は還暦を迎え、定年退職したゴルフ好き8人からのスタートだったようだが、今では毎回20人前後、5〜6組のコンペが和気藹藹に行われている。まだ現役で仕事をしている者もいるが、ほとんどの者は一線を離れ、「あっちが痛い」「こっちが悪い」と言いながらゴルフに興じている。大阪や神戸からの参加者もあり、大いに盛り上がっている。10年以上も続けて世話をしてくれている友には本当に頭が下がる。

「同級生の安否確認の意味もあるんやで！」と話す者もいるが、全くもつて的を射ている。「このような付き合いこそが、気を使わず、ストレスを感じず、70歳を超えても元気に過ごせる秘訣かも」と納得しながらクラブを握る手に力が入る。

「素晴らしき友、

同級生に感謝してー」





学年行事・クラス発表

4波、この期間が本校にとって一番影響が大きかった時期です。4月当初に、複数の感染者がでたため、学級閉鎖や学

年閉鎖を実施せざるを得ませんでした。ゴールデンウィークを活用しながら感染拡大の防止を職員・生徒一丸となつて取り組んだ結果、連休明けからは感染拡大を防止することができました。しかし、6月末まで続いた第4波によってしまいました。3年生にとっては最後の塔陵祭であること、また、家政科のファッションショーも併せて実施できなくなることから、代替行事はできないかと考え、7月にたつの市の赤とんぼホールで、3学年のみによる学年行事を実施しました。各クラスによるステージ発表とファッションショーを開催しましたが、どのクラスの生徒達も生き生きとして、ステージ発表を行い、家政科も見事なファッションショーを披露してくれました。

さらに、7月から9月にかけての第5波です。オリンピックの開催もあり、全国に感染拡大は大きく広がりました。しかし、夏休み中ということもあり、部活動・学校行事・学科行事は県内に限定されましたが、影響は最小限にとどめることができました。また、生徒の感染者も家庭内感染が若干でしたが、広がることはありませんでした。9月に入り、ワクチンの接種率が高

まいったしました。半日ではありましたが、生徒たちはグラウンドを駆け回り、躍動した姿を見ると大変うれしく思いました。新型コロナウイルスとの戦いは、まだまだ、続くと思いますが、ワクチンはもちろん治療薬も出始めました。必ずや人類はコロナを乗り越え、明るい未来を築いてくれるものと信じています。

さて、本校では東日本大震災があった2011年から毎年、宮城県の仮設住宅を訪れ、ボランティア活動が続けてきました。現地では農業科学科が育てた花の植栽、家政科が作ったケーキや焼き菓子のプレゼント、寄せ書きや応援メッセージ、現地の被災住民の方や石巻北高等学校の生徒との交流を図ってきました。これまでで、200人を超える生徒たちが参加してくれています。このほど、ソロプチミスト日本財団から本校の活動に対して、「学生ボランティア賞」の表彰を受けました。今回の表彰は、生徒の主体性と長年の継続が評価されたものです。

塔陵会の皆様の中にも参加された方が多くおられます。ご報告申し上げます。進路関係では、昨年3月に卒業した



前庭を訪れたアサギマダラ

塔陵会の皆様には、平素より、本校教育活動にご支援ご協力いただき、誠にありがとうございます。

一昨年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大により昨年も大きな影響を受けた1年でした。

昨年1月には年末からの感染拡大の第3波が押し寄せ、学校教育活動は大きな制限を受けました。現3年生が計画していた修学旅行も中止をせざるを得ませんでした。高校時代に最も思い出深くなる行事がなくなつたことは、残念でなりません。卒業式は、卒業生・保護者のみの出席で、短縮・簡素化し何とか実施することができました。

そして、3月から5月にかけての第

年閉鎖を実施せざるを得ませんでした。ゴールデンウィークを活用しながら感染拡大の防止を職員・生徒一丸となつて取り組んだ結果、連休明けからは感染拡大を防止することができました。しかし、6月末まで続いた第4波によってしまいました。3年生にとっては最後の塔陵祭であること、また、家政科のファッションショーも併せて実施できなくなることから、代替行事はできないかと考え、7月にたつの市の赤とんぼホールで、3学年のみによる学年行事を実施しました。各クラスによるステージ発表とファッションショーを開催しましたが、どのクラスの生徒達も生き生きとして、ステージ発表を行い、家政科も見事なファッションショーを披露してくれました。

# 「コロナを乗り越えて」

校長  
西坂美樹

高校第31回生（昭和五十四年卒）



ソロプチミスト日本財団からの表彰

まいったました。半日ではありましたが、生徒たちはグラウンドを駆け回り、躍動した姿を見ると大変うれしく思いました。新型コロナウイルスとの戦いは、まだまだ、続くと思いますが、ワクチンはもちろん治療薬も出始めました。必ずや人類はコロナを乗り越え、明るい未来を築いてくれるものと信じています。

さて、本校では東日本大震災があった2011年から毎年、宮城県の仮設住宅を訪れ、ボランティア活動が続けてきました。現地では農業科学科が育てた花の植栽、家政科が作ったケーキや焼き菓子のプレゼント、寄せ書きや応援メッセージ、現地の被災住民の方や石巻北高等学校の生徒との交流を図ってきました。これまでで、200人を超える生徒たちが参加してくれています。このほど、ソロプチミスト日本財団から本校の活動に対して、「学生ボランティア賞」の表彰を受けました。今回の表彰は、生徒の主体性と長年の継続が評価されたものです。

塔陵会の皆様の中にも参加された方が多くおられます。ご報告申し上げます。進路関係では、昨年3月に卒業した

生徒たちは、学校が5月末まで臨時休校であったため、十分な授業確保ができない状況ではありましたが、補充や補習をしっかりと取り組んでくれたおかげで、進路関係では国公立大学に11人の合格者を出すことができました。就職関係でもコロナ禍で社会経済が停滞していましたが就職率もほぼ100%でした。今年度、求人数は昨年度より若干減少はしましたが、就職率も良好な状況にあります。就職・進路関係それぞれについて、生徒たちは頑張ってくれています。

最後になりますが、今年度、農業科学科が「旅する蝶アサギマダラ」の好むフジバカマの苗を栽培し、地域の方に提供したところ、多くのアサギマダラが訪れてくれました。本校の前庭にも100株ほど植えたところ、10月には多いときで1日に30頭を超えるアサギマダラが来てくれ、楽しませてくれました。来年度も、本校の前庭にフジバカマを植栽しますので、10月に本校の近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。

塔陵会の皆様のみますますのご健勝とご多幸を祈念するとともに、今後もお一層の母校へのご支援とご協力を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。

# 特 志 寄 稿

## 「地域と共に学ぶ」

地域協働部長・家政科長

岩 崎 由香子

家政科は、令和2年度に文部科学省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」の採択を受けました。本科では従来から地域との協働活動がいくつかありましたが、国からの指定を受けることで、より一層の地域交流・貢献活動に幅広く取り組むことができると、意気込んでスタートする予定でした。しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、学校生活自体が異例の始まりとなりました。そんな中でも、当初の計画を変更や縮小しながら1



商品開発会議

年目の活動を進めていきました。研究を計画するにあたり、開発名を「食」を通じてローコスト・ハイ

クオリティ社会の実現を目指すプロフェッショナル人材の育成と佐用風土（Sayo Food）を活用したモデルプランの構築と掲げています。設定の理由は、佐用町の強みや弱みに家政科での取組や教育目標を照らし合わせ、課題解決に向けた取組を行うことです。この開発名のもと、具体的に事業を展開していくために3本柱のテーマを設定しました。一つめが「佐用の特産品を活用（特産品を使用した商品開発）」、二つめが「佐用で暮らす人を守る（健康寿命の延伸）」、三つめが「佐用の水害から学ぶ（安全・安心なまちづくり）」です。これらそれぞれの分野で「食」に特化した科目を中心に1年次から事業展開を行うことで、生徒にはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力、ふるさと貢献意識の向上など様々な力を身につけさせ、最終的には地域を支えるプロフェッショナル人材の育成を目指したいと思っております。また、事業の遂行に関してコンソーシアムを構成し、佐用町役

場をはじめ特産品の生産者や加工業者、地域創生やカリキュラム開発のアドバイザーとして大学教授や専門学校など、多岐にわたって協力をお願いしております。1年目の取組では、主に知識の定着を図ることを中心に授業を構成しました。佐用町役場の方からの講義や調べ学習を通して、佐用町を知るところから始めました。その結果生徒には地域貢献意識が高まり、2年目の実動に向けてしっかりと地盤を固めることができました。令和3年度は2年目に入り、実際に地域との協働事業に多く取り組むことができています。3本柱それぞれの取組の一例を紹介いたします。

- ①「佐用の特産品を活用（特産品を使用した商品開発）」  
2年生「課題研究（食物）」の授業で、佐用町の特産品を使った商品開発を行っています。今年度は「特産品×災害備蓄食」をテーマに掲げ、「夢茜トマトソース」と「夢茜トマトと佐用もち大豆入りカレー」を開発中です。佐用町・生産業者・加工業者・栄養士の方々と何度も会議や試作調理を繰り返すことで、商品化に近づいています。
- ②「佐用で暮らす人を守る（健康



給食ボランティア

寿命の延伸）」  
2年生「ヒューマンサービス」の授業で、「高校生訪問サービス」を実施しています。生徒が直接、佐用町在住の高齢者世帯に訪問してお話を聞いたり、一緒にレクリエーションを行ったりしています。現在2回の訪問を終えましたが、どの世帯の方々にも大変喜んでいただき、核家族が増えている生徒にも貴重な体験の場となっております。

- ③「佐用の水害から学ぶ（安全・安心なまちづくり）」  
2年生「課題研究（福祉）」選択者を中心に12月に実施する「佐用合同防災訓練（KIZUNA大作戦）」を企画中です。従来は高校のみで行っていた防災訓練に、佐用町役場をはじめ佐用小学校の児童や近隣住民の方に参加していただき、佐用消防署、ドローン減災士協会、兵庫県立大学の教授や学生の方々の協力を得ながら実施する予定です。

関係各所のご指導とご鞭撻をいただきながら、まだまだたくさん



高校生訪問サービス

# 農業の道を一筋に

## 春井芳郎

高校11回生（昭和三十四年卒）

令和3年11月17日、突然福本美昭君が、塔陵43号の原稿依頼にみえた。話をしながらなつかしく高校時代がよみがえりました。

私は、農家の長男として生まれ、80歳と年を重ねました。おもえば、迷うことなく農業科に進みました。農業科で農業の基礎を学び父から農業の厳しさをたたきこまれました。

まず、農業改良普及員になるため農業試験場で学び普及員の資格をとり県の職員になりました。兵庫県の農家が職場でした。県内の各地に赴任し宍粟郡では胡瓜や黒大豆の生産地になることを目指し農協と密にしながら産地を増やすことに力を注いだものです。

台風時期に、胡瓜がダメになると連絡が入り夜、大雨の中を車で走ったこともあります。

佐用町では、気候に適したもち大豆を産地化することに先輩の方にアドバイスを貰いながら上月のもち大豆を産地化していきました。農家のみなさんや地域の指導者の苦勞のお蔭と感謝しています。普及員というのは、地域に適した産物を増やし、農家の方々の暮らしを豊かにしていく方向づけをしな

ければなりません。退職してから、三日月の味わいの里へ立ち寄ると兵庫県の特産品としてもち大豆が献上されたと展示されていました。なつかしさと共に普及員のよろこびを味わったものです。現在、各

地に特産品販売所があるのもみんなが潤う場所として設置されています。退職後は、春はかたくりの花の保護、うどの栽培、夏は、夏野菜の栽培、西瓜は孫達が喜びます。秋は米の収穫、栗の販売、冬はまき作りと、先祖から受け継いだ、田畑山を守りながら惜しみなく働いています。

下さいました。初段を取ることもなく途中で止めてしまうのですが、また、学校帰りには一人でヤクザ映画を見たものです。今の山川石材店の所に「日新館」という映画館があったのです。高校2年のとき、東京オリンピックが開催され、体育館でテレビを見、一般家庭でのテレビの設置もこれからというときでもありました。

卒業後どうするか。私の場合は、家が神社の関係で、父の言うままに、何の抵抗もなく國學院大學神道研修部を受験し、それがいいのか悪いのか、当然のように入学。受験競争の偏差値のことなど全く圏外のことでした。

## 「佐用高校の在校生に寄せて」

### 安藤直彦

高校17回生（昭和四十年卒）



私は昭和37年に利神中学校石井分校を卒業、佐用高校普通科に入學、昭和40年に卒業しました。高度経済成長期ただ中の日本、今思えば、上石井からの13キロの自転車通学の砂利道、よくパンクし修理道具を用意したりして、その道も簡易舗装され、やがて、完全舗

装になる頃でした。佐用姫神社の所でバイク2種の免許が取れ、同郷の友と内緒でバイク通学をしたり、平福の友とは空気銃で鳥をとったりしたものです。山が育ちのせい、多くの前でふるまうことが出来ない私、心惹かれる女子にも何も示せないのでした。部活動は剣道部、今は跡形もありませんが今の校舎の中ほどに木造の講堂があり、そこが練習場、OBの先輩が厳しく優しく教えて

私の自我の目覚めは大学3年、学問のこと、恋のこと国家の在り方のことなど東京は何でも出来る処などと、葛藤の多い11年間東京での青年期でありましたが、そんな中、郷里佐用のこと常在に浮かぶ私でもありました。「ふるさと」とは何か。「遠きにありて思うもの」（室生犀星）と仕切れない都鄙問答が今に続いている私。東京での学問を志しながら、故郷の神社を放っておいてそれでいいのか、と、東京での身の確立の困難も思いながら、兵庫県の教員のお誘いを受けたことを機に兵庫県に帰ったのでした。教員の勤務地、最初は少しでも東京に近い所をと阪神間を希望し、西宮での高校教員を16年、そして佐用高校で9年お世話になった次第です。その佐用高校での一番の思い出は、平成5年の「ふれあいの祭

典「兵庫短歌祭」ジュニアの部に、担当の生徒さんのこぞつての短歌作品の応募で、兵庫県知事賞以下、大きな賞の11の内、6首6人が入賞したことです。神戸新聞・読売新聞など記者の訪問をうけ、短歌界にも注目されました。定期考査の済んだあと短歌創作、クラスでの歌会などいたし、生徒たちものりのでした。更には、親和女子大学の短歌賞に最優秀となり、5万円の図書券を頂いたことなど。また、佐用高校での一般向け文化講座の企画があり短歌講座も設け、20人ほどの方が参加されたこと。その頃は佐用に於いて、短歌

や俳句の最盛期でもありました。地域社会の活性が国、県において言われている時でもあり、全国の短歌大会に20首の賞の内、7人ほどが入賞し、文化力の弱いとされた佐用が全国的に知られたこともありました。土地の8割以上が山の自然環境、高齢化過疎化著しいふるさと佐用。どうあつたらよいか、課題は大きい。これからは更に、街の文化と地域社会の自然を軸に、その両方を持った在り方の確立がよいように思われます。どうか生徒の皆さん、ふるさと佐用を大切によろしくお願いいたします。

# 近頃思うこと、あれこれ

## 井上眞生

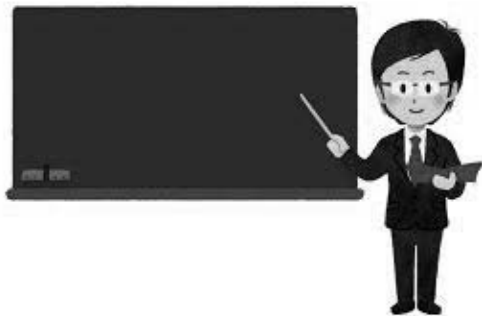
高校19回生（昭和四十二年卒）

私は佐用町平福で生まれ、学生時代を除き故郷での日々です。その私を育ててくれた保育園、小学校、中学校の校名、学び舎は既になく残るは佐用高校のみです。入学当初はほぼ全てが木造の2階建てと平屋の校舎でした。前年に完成した体育館兼講堂が元の運動場に鎮座し、運動場といえるほどのものはなく現在の広い運動場は整備中でした。先生方、同級生に恵まれ楽しい高校生活を送り無事大

学へ進学できほつとしたものです。その大学生活は親元を離れての下宿生活、部活動に明け暮れた日々でした。3、4年次は全国的な大学紛争に巻き込まれ十分な講義を受けることもなく卒業となり劣等生の私は大いに喜んだものです。その嬉しさは長くは続きません。家庭の事情で故郷へ帰らねばならず、卒業1年後に教員採用試験を受けることになり専門知識など不足りない私は大いに苦労したもので

です。しかし、縁あって正規採用、教員の道を歩むこととなり9年目に母校に帰りました。平成6年までお世話になりました。その間創立80周年行事に出会い、同窓会の皆様と記念誌「塔陵」の編集作業に携わり同窓先輩諸氏の母校に対する限りない愛情とお力添えがあつたことが強く心に残っています。その後早期退職し、自坊の守をしながらの日々です。私の子供時代を振り返って意外に懐かしく思い出すことに、ぼんやりとある。黙って何もせず、取りとめもない思いにふける。こんな時間が何と貴重だつたことか。いまの教育には、何事も「有意義」でなければならぬという側面が見られる。家庭もそうで、塾に通わせ、家でも子どもが机に向かつていないと気がすまないところがある。学校の週5日制も定着した今、社会全体がせせこましく動き回る生活スタイルの変革へと結びつかないものかと思うところ。このような時であつて、いま人々が宗教を求める最大の動機は「精神の安定」「安心」ではないかと思ひます。仏教は葬式のためとのイメージが強く、ほんの一時でも社会で疎外感を味わっている孤独な人々を受け入れ、心を開かせるパワーが備わっていない。実際の活動が人々の生活と接点を持てていないとの自戒から先ずは境内に足を運んで頂こうと数年前から「風鈴まつり」を始めました。一昨年からはSNSによる拡散、そして新聞、ラジオ、テレビ、情報

サイトに取り上げられ、コロナ禍とは言い関西一円から多くの方が訪ねて下さるようになりました。機会があれば「福ふくふくろうの寺」をお訪ねください。最後に、「ネコ、バカ、坊主、医者、先生」という言葉をご存じだろうか。これは、周囲の人がすすめもしないうちに自分から上席の座布団に平気で座る者たちのことを風刺したものです。私たちは、つい己の職域や組織の内でも与えられている地位が、いつも、どの社会や場においても通用するものだと錯覚しがちである。この思い上がりがこぞ怖いのである。いつも自分に言い聞かせる日々である。



# 健全な山づくりをめざして

## 吉田 義弘

高校25回生（昭和四十八年卒）

私は、現在スギ・ヒノキ林の間伐を行う仕事をしています。山林所有者から委託を受けて、国・県・町の補助事業を活用しながら間伐材を生産し木材市場へ出荷販売し、健全な森林を形成して収益金は所有者に還元します。

佐用高校を昭和48年に卒業し、大学卒業後、事務機器販売会社で営業の仕事を経験しましたが、過労と食中毒で生死をさまよったことがあります。販売だけの毎日、将来への不安を抱いていた時、上月町森林組合が職員採用募集をしていました。山の仕事は幼いころから親に連れられてよく手伝っていたので、愛着もあり希望をもつ



て受験しました。採用にあたり組合長から「試験の成績は悪かったが、作文で50年先を考えた森林を造りたい、という君の情熱にかけて採用することにした」と言われました。

30年間の勤務では、組合運営を行いつつながら、付加価値の高い林にするための手入れや、木材生産のための永久的な作業道を開設しました。スギ・ヒノキ林は人間が自然に逆らって経済目的で植林されたものです。トマトやナスビなどの野菜生産は1年周期で経験を生かすことができますが、スギ・ヒノキ林を育てるには50年以上かかるため長年の投資と知識・情熱が必要で、今も勉強の毎日です。

また、組合員に啓蒙を図るため15年間上月町木材品評会を開催しました。地域のため、命を懸けて仕事してきたと思っと思っていますが、ひとえに組合員及び熱心な組合長に支えていただいたおかげで、充実した勤務期間を送れました。

山の仕事は過酷な作業と思われるでしょうが、幅員2メートルの作業路を開設しミニコンボと林内運搬車で伐採した丸太を搬出します。激しい作業は事故の元、継続

# 本田 甫さんを偲ぶ

塔陵会美術支部副支部長

## 春名 章良

高校9回生（昭和三十三年卒）



笑顔の本田 甫さん

本田 甫さんは令和3年5月10日78歳で永眠されました。本人は塔陵会美術支部発足とともに支部長に就任し、在任中は支部の総会・親睦会を毎年のように開き、また時には一日バス旅行を企画し同窓会員の喜ぶ様子を見て満足の表情を見せていました。支部の運営・発展に多大の尽力をして下さいました。その任を今後とも末永く務めてもらえるものと期待されていただけに突然のご逝去まことに残念という他ありません。

ご家族の目を通して見た甫さんの足跡の一端を紹介し、追悼のこゝばに替えさせていただきます。

若いときはプロイラーを多い時期一万二千羽は飼って深夜2時に起きて世話をしておりました。

民宿とドライブインを始めてからというもの、お客様に喜んで欲しい一心でひたむきに働いていた様子も覚えております。また、28歳で任された町議会議員は2期にわたり務めさせていただき、愛する地元のために少しばかり役に立つことができました。

人との絆を大切にする人情家である一方、意志が強すぎるあまり時に頑固・わがままな点もありました。しかし裏表のない性格を多くの方に愛されて、大好きなゴルフや酒の席をご一緒させていただきました。賑やかな時間をきつと感謝の気持で振り返っているでしょう。

かえり見れば、多くの人々との交流に恵まれ、ゴルフ・野球などにも熱中し、人生を謳歌してきた姿が印象的です。今は、休むことなく駆け続けた本人を労い、これまでの分もゆっくりしてくれるようお願い、心から感謝しております。

最後に甫さんへの哀悼の誠を捧げ、心からご冥福をお祈りします。



できるようにゆっくり作業します。一番大変な作業は伐採する木の選木です。森林を良くする上で妥協しない気力と集中力が必要で、山林所有者に喜んでいただき、良くなった森林を見ると幸せです。昨年山林所有者に間伐の依頼を受けにお伺いすると、亡き父にあなたのお任せしますと言っていた、作業をお任せしますと聞いて、作業可能になりました。佐用町では木材生産可能森林が増えています。木材生産に従事する人・グループが増えたら大変うれしいです。

「このジャムを食べてみてください。私たちが作ったトマトジャムです。」インテックス大阪で開催されたイオン見本市の会場で、家政科の生徒から元気の良い声が発せられました。

私が経験した高校生時代とは一味も二味も違った授業内容ですが、生徒たちが取り組んできた姿勢や家政科の先生方のご努力がみゆり、令和2年度からは地域と協働する、文部科学省の補助事業に採択され、今年度で2年目を迎えました。残念なことコロナが世界を震撼させる事態となつてからは、校外での活動が制約され、生徒たちを連れて外に出ることが難しかったのですが、令和2年の年末には関係者様のご理解をいただき、佐用駅前のコパコで生徒たちが作ったトマトソースとち大豆パウダーの

販売を行ないました。完売した時の生徒たちの嬉しそうな顔が忘れられません。

文部科学省の事業は地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）でプロフェッショナルな人材を育成して輩出しようというものです。①佐用の特産品を活用する ②佐用から学ぶという3つの大きなテーマで授業を進めています。今年度も生徒の皆さんは、それぞれのテーマで真摯に取り組を進め、今年度はトマトを原料にした防災食を作っています。

塔陵第42号の表紙にジャムを持った家政科の生徒たちが掲載されましたが、地域と生徒が一緒になつて取り組む授業スタイルは、佐用高校の大きな特色であり強みです。私はこれからも地域と学校をつなぐ架け橋になりたいと考えています。生徒の皆さんが今後さらに各方面に羽ばたき活躍していただくことを願って筆を置かせていただきます。

設しました。木造住宅の製造建設による化石燃料の使用量は少ないでしょう。また、世界から数千年かけて蓄積された木造建築の技術を生かした住宅建設を強要される

と思います。これからもっともつと木材の需要が増えたらいいなあと思っています。まだまだ体力の続くかぎり山へ行きます。

# 「家政科の生徒と共に 励んでいます」

久保 正彦

高校28回生（昭和五十一年卒）

というのも、農園・加工業者・イオンなどの販売業者等とネットワークづくりを行い、クラウドファンディングで製作費を捻出する活動等、企画開発支援チームの調整役としてまた一員として家政科生徒の加工品づくりに関わってきていたからです。



# 在校生だより

## 「佐用高校に入学して」

第1学年 谷口 宏太

希望と不安を胸に、万全の感染予防対策の中行われた入学式から始まった学校生活は、自分の席で前を向いて食べる「黙食」や行事の縮小など、いろいろな制限がありました。

しかし、感染者数が大幅に減少している11月の今では、少しずつ可能なことが増えてきています。体育では、マスク着用の上での声出しが可能になりました。体育委員の掛け声に合わせて、美しい形を意識しながら行うラジオ体操やランニングには大きなやりがいを感じます。

教室ではタブレットを用いた授業が盛んに行われています。総合探究の授業では、「社会人インタビュー」の発表会を行っています。一人一人が夏休みの課題として取り組んだ社会人インタビューの内容をスライドにまとめクラスメイトの前でプレゼンテーションをします。他の人の発表を聞いています。時は、評価とコメントをフォームに入力することで、相互評価をしています。また、教科によっては小テストの解答や課題の提出などにもタブレットを使っています。さらに、2学期からは、「Google Classroom」というアプリケーションを活用し、担任の先生とク

ラスのみながつながつた教室のような場をネット上に設けることができました。このクラスルームは、時間割変更や提出課題、小テストの予定、行事の詳細など、様々な情報が共有できる場となっています。普段言いにくいようなことを気軽に相談できる場でもあります。

また、私は入学当初からバドミントン部に所属し、練習に励んでいます。西播大会では、先輩がダブルスで地区大会を勝ち抜き、県大会出場を果たしました。先輩方の練習に取り組み姿やいたいただいたアドバイスを、自分に足りない

ものを見つめ、改善することで日々成長を実感しています。先日迎えたデビュー戦では、シングルスで2回戦進出、団体戦で、2年生のチームのメンバーとして出場し、チームの勝利に貢献することが出来ました。

最後に、私は高校生活の中で、多くの方々へ感謝を感じています。一人一人が高い意識を持って感染予防対策を行ってくれているおかげで、安心して授業や部活動に取り組むことができています。先生方は授業や行事で、貴重な体験をさせてくださり、たくさんのことを教えてくださります。バドミントン部で意外にお金のかかるシャトルを思いつ切りに打ち合えるのも、多くの方々の支援があつてこそのもです。そういった私たちの学校生活を支えてくれる方々への感謝の気持ちを忘れず、日々努力し、大きく成長していきたいと思っています。

## 「日本調理製菓専門学校での校外学習」

第2学年 小出 日菜多

私たちは、8月26日、10月6日、11月10日の3回、日本調理製菓専門学校で校外学習をしました。1回目は「トマトチキンカレーの缶詰」と「アルファ米を使った焼き鳥丼」を作り、災害時にも作れる料理や保存食について学びました。トマトチキンカレーの缶詰作りでは、缶詰にするときにペーパーを厳しく計って病原菌が繁殖

しないようにしたり中を真空にする必要があつたりなど、私が知らない決まりが多くあることを初めて知り、驚きました。災害食ですが、アルファ米や缶詰は普段から食べたくなるような料理でしたし、災害時にも役立てたいと思いました。

2回目は、家政科で協働している給食サービスポランティアに向

けて、大量調理の実習をしました。作る料理ごとにグループに分かれ、皆で協力して40人分のお弁当を作りました。いくつかのメニューの中で、私は、「鶏の照り焼き」とご飯を担当しました。初めて見る機械があつたり大量調理の鍋としてもじがとでも大きかつたりして驚きました。40人分のお米を一気に洗うのは、お米と水が重くて3人で役割分担しても大変な作業でした。「鶏の照り焼き」が焼けたとき、きれいな焼き色がついていたのが嬉しかつたです。衛生面にも気を遣い、キャップをかぶつたりローラーで衣服のごみを取つたりなど徹底していることも印象に残りました。また、40人分と聞いて最初は時間がかかりそうだなあと心配でしたが、役割分担をしたので思ったより早く完成してほつとも美味しくて、また食べたいと思いました。

3回目は、専門学校内のスペースを使ってカフェ実習を行いました。前半はカフェのオープン前の準備を全員で行い、後半は店員とお客様に分かれて実習しました。メニューは「姫路レンコン入りハンバーグ」「ミネストローネ」「シーザーサラダ」のワンプレートトランチと「クレームブリュレ」で、私はシーザーサラダの下準備と、開店後のミネストローネ作りの担当でした。カフェは、お客様にできるだけ早く温かい料理を出さなければならぬので、接客担当の人と連携して料理をタイム



グ良く温めたりお皿に盛りつけたりしました。丁寧な素早く作業するのは難しかったです。カフエの裏側の仕事を体験できて良かったです。これまでの実習や家政科での活動と違い、お客様に目の前で料理を食べていただく実習だったので、初めて学ぶことが多かったです。お客様側をしたとき、接客担当の人が笑顔で接してくれたことが嬉しくて、楽しく過ごせま

# 「ごだけの輪」

第3学年 中石 愛衣

私はこの3年間で皆との数えきれない程の思い出があります、最も印象的なのは3年生での文化祭です。

高校生活の中で最も大きいイベントとされる修学旅行や多くの行事を思いっきり楽しめる「2年生」という学年を迎えようとしていたとき、「新型コロナウィルス」という言葉を耳にするようになりまし。そこから新型コロナウィルスは目にもとまらぬ速さで拡大し、今までの平穏な日常生活を奪っていきまし。そして一番楽しみだった修学旅行を初め塔陵祭や体育祭などの行事は中止・縮小され、日々の授業・実習までもが今まで通りとはいきませんでした。皆との思い出作りの機会が日に日に失われる中、74回生のみで文化祭を開催して頂けることになりました。

私達1組（農業科学科）はクラ  
した。私も将来接客をする機会があれば、この気持ちを忘れずにお客様に接したいです。  
日本調理製菓専門学校での校外学習は家政科の先輩方も行っていない、私たちの学年だけが行った実習でした。ここでの貴重な体験を活かし、今後の家政科の活動をより良いものにしていけるよう頑張っていこうと思います。

苦手な子に教える子がいたり、汗が垂れ落ちるのも関係なしに必死に練習する子がいたり皆の頑張りが目に見えてわかりまし。クラスCMも皆で日程を合わせ、休日に学校に集まり撮影し、編集が得意な子達で本番前日の夜中までかけDVDに落とす作業まで行ってくれました。そして迎えた本番スポーツライトに照らされた、皆の楽しそうなあの笑顔は今でも忘れることはできません。先生方に「1組が一番だった！」と言って貰えるほどの素晴らしい発表だったと思います。  
この文化祭を通して私は、改めて1組を誇りに思いました。一人一人が頑張れるクラスです。お互いを思い合える最高のクラスです。コロナで行事が減ってしまいましたが1組といれば、日頃の授業や実習でさえも一つの楽しい思い出です。

母 校 だ よ り  
母 校 の 近 況  
教 頭 上 田 貴 哉  
今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、校内においても感染者が発生し、塔陵祭が中止になりました。しかし、校内での検温、手指消毒、黙食を徹底することで、家政科のフアッションショーや体育大会は、感染拡大の防止対策を徹底しながら実施することができました。実施できた行事では、本校生は明るく元気に生き生きと参加し、活動することができました。  
家政科は「地域との協働による高等学校改革推進事業」の研究指定校に選ばれ、令和2年度より3年間、地域の課題解決を通して新しいカリキュラム開発に取り組み、2年目を迎えています。  
部活動では、バドミントン部が3年連続県大会出場、男子ソフトテニス部が県新人戦個人戦出場、陸上競技部も男子円盤、砲丸、やり投げ、女子走高跳びで総体県大会に出場しました。写真部が兵庫県高等学校文化祭で優秀賞を受賞し、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会に出品する。家政科では、サンテレビの「ひょうご発信」のTV取材を受け、昨年度、佐用町特産品「夢苜トマト」を用いて産官学協働で開発した「西播磨フードセレクション2022」で金賞を受賞した「夢苜トマトジャム」が取り上げられ放送されました。また、農業科学科では、但馬牛の発育などを競う「県畜産共進会」農大・農高枠選考会「種牛」部門において、優秀賞を獲得し、その他にもソロプチミスト日本財団から東日本大震災の被災地へボランティア訪問を続け、たことによる「学生ボランティア賞」の表彰を受け、新聞記事として取り上げていただき、佐用高校を知っていただく良い機会となりました。  
就職では、昨年、新型コロナウイルスの影響を受け、募集停止や削減企業が多発し、求人数は減少していましたが、今年については、一昨年以上の求人数をいたことができています。しかし、接客、販売業の職種は大幅に減少し、製造業が増加しているという傾向になっていきます。現在の就職内定者は、11月1日現在53名で、内定率は96%となっています。進学では、夏から各種推薦入試が実施されています。12月3日現在、国立大学3



## 令和3年度 在籍生徒数

(11月1日現在)

学 年	1 年			2 年			3 年			計			学級数
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
普通科	48	37	85	53	54	107	57	46	103	158	137	295	9
農業科学科	28	9	37	31	8	39	28	5	33	87	22	109	3
家政科	1	25	26	0	36	36	0	34	34	1	95	96	3
合 計	77	71	148	84	98	182	85	85	170	246	254	500	15

《生徒会》  
○交通安全マスコット配布  
《ボランティア活動》  
○今年度は、コロナウイルス感染拡大のため、東日本大震災復興支援ボランティア活動は中止。

## 進路状況 令和2年度（73回生）進路状況

	合 計			農業科学			家 政			普 通			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
卒業者数	90	90	180	31	4	35	0	32	32	59	54	113	
進 学	大学（通信制含む）	24	11	35	4	1	5	0	3	3	20	7	27
	短期大学	0	8	8	0	0	0	0	3	3	0	5	5
	専修・各種学校	38	38	76	11	2	13	0	6	6	27	30	57
	その他・未定	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計	63	57	120	15	3	18	0	12	12	48	42	90	
就 職	民間企業	25	30	55	16	1	17	0	19	19	9	10	19
	公務員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	縁故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家事手伝い・その他	1	3	4	0	0	0	0	1	1	1	2	3
計	27	33	60	16	1	17	0	20	20	11	12	23	

《読書感想文》  
○令和3年度播磨西高校読書感想文コンクール  
佳作 門元 果凜  
21年権さよ 依有 桜里花  
北鎌村田

## 令和2年度 同窓会会計決算書

収入総額 5,160,976円  
支出総額 3,315,001円  
差引残額 1,845,975円 … (次年度へ繰越)

### 収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
繰越金	2,378,122	2,378,122	0	前年度からの繰越金
会費	2,208,800	2,186,600	△ 22,200	会費・入会金
入会金	200,000	200,000	0	1,000円×200名
会費	2,008,800	1,986,600	△ 22,200	300円×6,622名（延べ人数）
雑収入	313,078	596,254	283,176	
諸収入	9,300	9,820	520	同窓会名簿売上代金
寄付金	303,700	586,404	282,704	
利息	78	30	△ 48	
計	4,900,000	5,160,976	260,976	

### 支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	残 額	摘 要
総務費	810,000	184,232	625,768	
事務費	30,000	30,000	0	事務局費
会館費	700,000	144,287	555,713	塔陵館火災警報機、塔陵館ガス給湯器凍結破損修理
通信費	50,000	9,945	40,055	切手代、総会資料等発送郵券代
旅費	30,000	0	30,000	
事業費	2,690,000	2,130,769	559,231	
広報費	1,600,000	1,522,229	77,771	「塔陵」16,000部印刷、発送料、寄稿者謝礼
会議費	110,000	8,540	101,460	役員会お茶代
慶弔費	20,000	0	20,000	
生徒活動援助費	500,000	300,000	200,000	部活動後援会補助金
生徒顕彰費	60,000	0	60,000	
負担金	300,000	300,000	0	佐用高校を育てる会拠出金
活動助成費	100,000	0	100,000	
積立金	1,000,000	1,000,000	0	周年事業計画積立金
予備費	400,000	0	400,000	
計	4,900,000	3,315,001	1,584,999	

# 同窓会の動き

副会長 福本 美昭

高校21回生 (昭和四十四年卒)

令和3年 4月8日 (木) 第76回生 入学式

7月1日 (木) 第1回 本部役員会

10月15日 (金) 第1回同窓会報「塔陵」

第43号編集委員会

11月29日 (月) 第2回同窓会報「塔陵」

第43号編集委員会

令和4年 1月1日 (土) 同窓会報「塔陵」

第43号発行

2月25日 (金) 第74回生 同窓会入会式

2月28日 (月) 第74回生

卒業証書授与式

## 「県立学校環境充実応援プロジェクト」について

兵庫県では、「ふるさと納税」事業の一環として、県立学校の教育活動の充実を目的とした「県立学校環境充実応援プロジェクト」を行っています。

本校は、「佐用から全国へ！」元気発信プロジェクトと題し、次の3つの事業に対する寄附をお願いしています。

- 1 主な部活動のトレーニング機器を刷新整備し、県・近畿・全国大会出場を目指す。
- 2 情報機器の活用によるスマート農業の推進ほか専門教育のICT化を力強く推進する。
- 3 ボランティア活動推進用のバスを1台借り、「佐用の心を全国へ」届ける。

母校佐用高校のますますの発展のため、会員の皆様のご支援とご協力をお願いします。

## 令和3年度 新役員・新代議員

### 【同窓会本部役員】

会長 谷本 昭学  
副会長 福本 美昭

### ◎転退職 (新所属)

徳永 和彦  
上郡高校

西岡 真仁  
姫路工業高校

松浪 真也  
高砂南高校

平見 隆成  
龍野高校

今井 佳代子  
在家庭

山口 風人  
在家庭

森川 映見  
在家庭

岡田 大輝  
在家庭

高見 智美  
相生高校

竹森 弘恵  
西播磨文化会館

### 【校内委員】

校長 西坂 美樹

教頭 上田 貴哉

事務局長 春田 名貴

教職員 田口 昌隆

事務局長 上田 貴哉

教職員 田口 昌隆

事務局長 春田 名貴

教職員 田口 昌隆

事務局長 春田 名貴

教職員 田口 昌隆

事務局長 春田 名貴

教職員 田口 昌隆

事務局長 春田 名貴

教職員 田口 昌隆

事務局長 春田 名貴

教職員 田口 昌隆

事務局長 春田 名貴

教職員 田口 昌隆

### 令和3年度職員人事異動

天野 智耀  
新規採用

岩井 実咲  
新規採用

田中 征子  
西はりま特別支援学校

伊渡村 太祐  
新規採用

林田 早紀  
臨時講師

高崎 裕一朗  
臨時講師

坂口 麻理子  
臨時実習助手

中田 真佑  
臨時実習助手

### ◎転入 (旧所属)

上田 貴哉  
香寺高校

教頭昇格  
宮田 真裕

姫路工業高校

## 追悼

ご逝去されました同窓会員の皆様に哀悼の誠を捧げるとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

### 塔陵会 会員の皆様へ

いつも同窓会報「塔陵」をご愛読いただき、ありがとうございます。今年一回の発行ですが、回を重ねて43号を迎えることができました。会員同士の繋がりが、そして母校の現況をお届けできる会報を目指していますが、もっと広く会員からの投稿を募ってはとの声があり、次号(2023年1月発行予定)に向けて、皆様からの懐かしい学生時代の思い出、卒業されてからの人生経験、後輩に向けてのメッセージ等、ご寄稿いただければ幸いです。是非、皆様からの投稿をお待ちしています。

## 同窓会ニュース

同窓会のホームページを開設しました。内容は同窓会ニュース、同窓会だより(同窓会報「塔陵」)も掲載中です。是非ご覧ください。

\*ホームページアドレス

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/dosokai/index1.html>

## 佐用高校イメージキャラクター



さっちゃん



おっちゃん



うっちゃん